



「ふしに躍る三年千日」 成人の道を歩もう

9月大教会教会長会議
立教186年9月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R.231025-0928-13
奈良県天理市指柳町270-1
本島話所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【10月1日～10月15日】
朝づとめ 午前6時30分
夕づとめ 午後6時30分
【10月16日～10月31日】
朝づとめ 午前6時45分
夕づとめ 午後6時15分

現在、ラグビーワールドカップ2023フランス大会が開催されています。

日本代表は世界にどこまで通用するのか心配していましたが、まさに一手一つに、試合を経験することによって力をつけているように思います。

身近なラグビーの話題で申せば2021年1月、全国大学ラグビー選手権で天理大学が初優勝を果たしました。

優勝の4ヶ月前(2020年8月)、寮内で新型コロナウイルス集団感染が発生し、1ヶ月間の活動停止を余儀なくされ、大きなニュースになりました。

練習量が少なく、そもそも大会の開催も危ぶまれ、今年のチームは練習だけで終わってしまうのかという不安の中、松岡キャプテンを中心にメンバーは覚悟を決めて、一試合ごと成長しながら日本一へと階段を登

りつめました。まだ記憶に新しいことと思います。

私たちも今、教祖年祭活動という特別な期間を迎えています。成人の道の大きなふしです。

現れてくる出来事には、小さなこと、大きなこと、楽なこと、大変なことなど、いろいろあると思います。それら出来事を大切に受け止めて、教祖ひながたの道を目標に成人の道を歩ませて頂きたいと思えます。

目前には大教会三代会長夫妻の年祭があります。

世話人・宮森与一郎先生が本部大祭前のお忙しい中、大教会へお運び下さり、祭主を勤めて下さいます。

片山俊次三代会長様が生前に残された揮毫に「ふしに躍る三年千日」があります。

「躍る」という言葉には、「おどりがあがる」や「とびはねる」という躍動感があります。教祖年祭活動をふし

本島大教会三代会長 片山俊次 三十年祭
本島大教会三代会長夫人 片山コズエ 二十年祭
日時10月21日(土)午後2時執行(本島大教会)

と受け止め、三年千日を勇ませ合い、励まし合い、心を躍らせながら、その姿を周囲にも映して、一手一つに年祭活動を歩ませて頂きたいと思えます。

おふでさきに
どのよふにむつかしくよふみへたとて よふぎつとめてみなたすけるで (第十二号61)

どんなに難しく困難な状況のように見えても、陽気で勇んだおつとめを勤めることで、皆救けるという意味です。

私たちはこのを、やの教を信じて、年祭活動を躍り勇んで勤めさせて頂きますよう。

(文責・本島通信編集室)



明るく勇んで年祭活動に 取り組ませていただくこう

大教会准役員
吉田晴雄よしだはるお

只今は、本島大教会の9月月次祭を、心を一つに揃え、陽気に勇んで勤めさせて頂きご同慶に存じます。ご指名を頂いておりますので、ただ今より神殿講話を務めさせて頂きま

す。しばらくの間お聞き取りくださいますようお願い申し上げます。

私が子どもの頃、父から「晴雄が母さんのお腹にいる時に、わしは肺結核で血を吐き吐きしていて、東京の大森にある東邦医大病院で診察したら、医者から半年の命と宣告されたんだ。それで、私はその時『生涯道一条で通る。又、お腹の中の赤ちゃんも生まれついで父無し子では可哀そうだ』と思い、この子も大きくなったら神様の御用をさせます」と神様と約束して、入院もせず毎日布教に歩く中、救けて頂いたんだよ」と、何度も繰り返し聞かされていま



した。

肺結核は明治から昭和20年代まで、不治の病と恐れられ、死亡原因の1位でした。

当時の父の日記には次のように書いてあります。

「昭和27年4月、己の病気は悪化し遂に肺結核となる。そして医者より半年の寿命と言われる容態となるが、決死の信仰に決断して、神一条の精神を定め、その日より布教す。」

「昭和27年8月16日、晴雄誕生。毎日のおたすけ活動の中に晴雄が誕生する。我が子可愛さはつのるが抱くことも出来ぬ。必死の道中なれば、今日は東、明日は西とあてどなき布教に、切なき子を想う情に枕をぬらす。僅かの寿命に、子の将来を不憫が重なる。」

そして、数行開けて

「然しながら、その後病気は奇跡的にグングン快方に向かう。神の慈悲か。」

とありました。

私は39歳で教会長になり、初めて大学ノートに書かれたこの日記を読んだのですが、子供の頃、父が私に語っていたことが、あらためて本当のことであったと心に響くものがありました。

これは余談ですが、血を吐きながら毎日必死で布教に明け暮れる父に対して、祖母吉田ハン(本千代分教会2代会長)は、息子が懸命に歩いているのを知った上で、「義

雄、お前布教に行く、布教に行くと言っているけれども、1人もお手引き出来ないじゃないか。布教に行くと言っているが、本当はどこかで遊んでいるんだらう」とあえて厳しく突き放された時、父は後年私に語ってくれました。

実はその道中、後に教会につながる多くのおたすけが動いていました。かつては、今よりも布教に厳しさがあつたようです。

私は28歳のとき道一条にならせて頂いて、今年で43年になります。遅々たる歩みですが、親神様・教祖を信じて、お道の御用を素直に心楽しく通らせて頂いております。

私が母の胎内に宿っている時に、父が親神様と交わした「お腹の中の赤ちゃんも大きくなったら神様の御用をさせます」という約束と、父が残した揮毫に「楽しいじゃないか 嬉しいじゃないか 結構じゃないか」があります。

私は、このお道の信仰のお陰で、私も楽しい、嬉しい、結構な年月を通らせて頂くことができ、有難い限りです。親がつないでくれたお道の御用を天職と自覚し、これからも

心勇んで勤めさせていただきたいと存じます。

教祖は、

「神さんの信心はな、神さんを、産んでくれた親と同んなじように思いなはれや。そしたら、ほんまの信心が出来ますで。」

（稿本天理教祖伝逸話篇一〇四「信心はな」）

とお聞かせ下さいました。

親神様が私たち人間のを、やである
と信するのが、このお道であります。
おふでさきには、

にちにちにをやのしやんといいも
のハ たすけるもよふばかりをも
てる

（第十四号35）

月日にはせかいじゅううハみなわ
が子 たすけたいとの心ばかりで

（第八号4）

とあります。

いちれつの人間をひたすらたすけ
たいとの心ばかり、これが、をやの
心です。

そして、親神様の心は教祖の心、
教祖の心こそ親神様の心、と教えて
頂きます。

届かぬ自分をいつも感じておりま
すが、私たち人間のを、やである親神
様・教祖の思召に素直に沿わせて頂
きたい。を、やの思いにほんの少しで

もお応えできるよう努めさせて頂き
たいと念じております。

そして、本島につながる私たちは、

大教会長様の思いを重く受けとめ、
素直に実行させていただくことを通
して、を、やの思いに近づき、教祖の
親心にお応えさせていただく事がで
きるのではないかと思案するのであ
ります。

さて、本年1月26日に、教祖140年
祭三年千日の活動が始まりました。

諭達第四号にありますように、年
祭の意義は、「教祖の親心にお応えす
べく、よふぼく一人ひとりが教祖の
道具衆としての自覚を高め、仕切っ
て成人の歩みを進めること」です。

また、「教祖年祭への三年千日は、
ひながたを目標に教えを實踐し、た
すけ一条の歩みを活発に推し進める
とき」であります。

とりわけ、この度の年祭活動では、
一人ひとりが何がしかの心定めをさ
せて頂き、その心定めを3年間日々
実践し成人の歩みを進め、ご存命の
教祖にお喜び頂こう、とお促しくだ
されています。

私も諭達ご発布以来、自分自身
の目標や心定めをパソコンのプリン

ターで書き出し、部屋の日に付くと
ころに貼り出しています。

諭達に「ぢばを慕い」と書いてあ
り、大教会成人目標にも「おぢばへ
帰らせて頂き、積極的にひのきしん
を行う」とありますので、自教会の
目標の一つは「ようぼくは、一年に
一回はおぢばに帰らせて頂きましよ
う。おぢばで一つひのきしんの実行」
としました。

また私自身は、教祖140年祭が会長
として務める最後の年祭と考え、ま
た帰らせて頂くことの出来る環境に
もありますので、「教祖140年祭まで
の3年間、毎月おぢばに帰らせて頂
き26日のかんろだい勤めを参拝させ
て頂くこと。また、おぢば滞在中は
朝づとめ、夕づとめを参拝させて頂
くこと」を定めました。

しかし、次の目標がなかなか決ま
りません。

昨年12月22日教会長会議での大教
会長様のご挨拶の中で、「私の中で
は、キーワードはおつとめ・布教・
おぢばがえりです」との言葉が、強
く心に残っています。おつとめとお
ぢばがえりはよしとして、布教とい
う点では、これぞという教会の目標
をなかなか決めかねていました。

また、このたびの年祭では、「道
の進展」ということも一つのキー
ワードでありましょう。

私は立教181年1月27日から、教会
長として1日最低限のご恩報じとし
て、毎日路傍講演をさせて頂いてお
ります。早や5年8カ月になりました。
ただ、昨年秋季より路傍講演だ
けでは足りない。一歩前に進みたい
思っていました。

そんな折、教祖140年祭全教会一斉
巡教の巡教員として、2月12日に洪
谷分教会で講話を始めた時に、ろれ
つが回らないのです。最後までお話
出来るのだろうかと不安に思いまし
たが、ゆっくりと言葉を紡ぎ出し、
何とか話し終えることが出来ほつと
しました。一過性脳虚血発作で、一
時血管が詰まりましたが短時間で血
栓が解けて症状が消えたのだと思わ
れます。

私は数年前から血圧が高く薬を飲
んでいますが、血圧がなかなか下が
らずにいました。父は67才の時に脳
梗塞になり1カ月近く入院し、長い
間、言葉が思うように話せませんで
した。また母は脳梗塞により出直し
ました。
その後私は2月に2度ほどろれつ

が回らない状態があり、これは、おかしいと思ひ、脳神経外科病院に行き、MRI検査をしたところ、急性期の脳梗塞が発症していました。病院で待ち時間の間、色々心調べをさせて頂きました。

その日教会にもどりましたら、三年千日の目標が浮かんできました。「種蒔き千軒」「ひと月千軒のをいがけ」毎月千枚のチラシを印刷し、千軒をいがけをさせて頂く、と浮かんできました。

この三年千日は、私にとって会長としての最後の種蒔きの旬。とにかく動かして頂きご恩報じさせて頂く、と思ひます。

最初は私一人で千軒をいがけに歩かせていただくと思ひましたが、大教会成人目標に、「一人ひとりが年祭活動を行う」とありますので、「みんなで動く年祭活動」だ。私ひとりではなく、信者さんを巻き込んで、みんなで動き回らせて頂く、と思ひました。

家内におさづけを取り次いで頂いた時に、身上危うい所を救けて頂いたお礼と合わせ、2つ目の教会の心定めとして、「みんなで動く年祭活動・毎月千件をいがけ」を親神様・

教祖にお誓い申し上げました。4月1日から開始し、人により毎月100枚の方、50枚の方、10枚の方とそれぞれ渡し、戸別訪問の苦手な方には「ポストへ投函してもよいので投函の際、『このチラシを読んでどうぞたすかって下さい』と祈念してください」とお願いしています。5月からは毎月千300枚配らせて頂いています。またチラシの裏には修養科のお誘いを書いています。

あなたに行つて欲しい。
修養科(期間3カ月・17才以上)
・卒業や結婚など人生の節目に教えを学びたい。
・健康になりたい。病気をなおしたい。
・夫婦、親子など人間関係を解決したい。
・依存症や生活習慣を改善したい
・人生が変わる 運命が変わる (天理教ホームページより)
お問い合わせは天理教本千代分教会まで

ちらしは既に約8千枚配布し、私もに、いがけに歩かせて頂いています。

す。
親々のようになかなか厳しい道は通れませんが、日々種蒔きを楽しむと共に、併せて、信者さんが、に、いがけに歩く側の立場になることを通して、何があつても信仰がぶれない教会の核となつてくれる人が、1人でも2人でも増えることを願っています。

ところで、私は本千代分教会創立100周年記念祭に、大教会長様から頂いたご挨拶の一つをずっと大切にしたい、教会に根付いて欲しいと思ひています。

本千代創立100周年記念祭のお話の中で、大教会長様は、
「ご本部の偉い先生方の最初は、ほんなんでもない人の一声でおちばに帰つたのです。実はどこの教会も、どこの偉い先生方も、誰かの導きがあつてお道にお引き寄せ頂いておられます。私達も、悩んでいる人、困っている人、谷底に苦しんでいる人、『おちばに帰りませんか、教会に来ませんか』と、ひと声かける人にならせて頂きましょう。」

人生は誰しも、山あり谷ありであります。だから皆様方に、どうか

心において頂きたいことは、谷を迎えた人に、困っている人に『教会に、ああ本千代さんに行つてごらん』と、ひと声・ふた声、声を掛けて頂けたらいいな。これが元一日の先輩の信念だったんじゃないかな、と思ひます。」

このようなお話でした。
先人が道に引き寄せられた経緯をひもとくと、例えば、飯降伊蔵先生にひと声掛けたのは、信者ではない喜三郎という人です。

大和の横田町で茶店をしていた茶谷新五郎という人がいました。彼は熱心な信者で、立ち寄る人々に教祖の話をしていました。そこへたまたま入ってきたのが、椿尾村の木工・喜三郎でした。彼は帰りしなに樫本村の木工・伊蔵の家に立ち寄りしました。そこで、伊蔵の妻・おさとが流産のあと具合が悪いと聞いて、早速茶店で聞いた話「庄屋敷の生き神様さんはどんな病も必ずなおしてください」との話を、伊蔵に伝えました。それで、伊蔵さんは藁にもすがる思いで教祖の元へ足を運び、助けて頂き、今につながっているのです。

「天理教布教部発行「さあにをいがけ」より」
また、女性で初めて本部長となら

れた増井りん先生は30才の時、父、夫が相次いで出直し、翌年りゅういん癩を患い、3年の寿命と宣告されました。そして、失明。悲嘆のどん底の中、12歳の長男幾太郎が所用で大和の竜田へ行った帰り道、道連れになった人から、「大和庄屋敷の神さんはなんでもよく救けてくださる。三日三夜の祈祷で救かる」と、聞いたのがきっかけです。

〔道友社編・逸話のこころたずねて より〕

私どももおたすけの心を常に持ち、おたすけのアンテナを張り、家庭や職場・地域など身近なところで、困っている人、悩んでいる人、身上事情で苦しんでいる人がいたら、また耳にしたら、「教会に来ませんか、おぢばに帰りませんか、修養科という運命を変える場所があります、修養科に入りませんか」と、ひと声ふた声、声を掛けさせて頂く動きが本島中に拡がっていったらいいなあと思います。

また、大教会長様は、創立120周年記念祭のご挨拶の中で、次のようにお話し下さいました。

「片山好造会長様を始め多くの先人にこのお道を伝えて下さった布教師・佐藤栄佐先生のことです。佐藤

栄佐先生は、ご自身の事情や身上を経験された上で、本島で布教を始めた内について、次の言葉が残されています。

『せめてこの道の信仰を、たった一人の人でもいいから、本当に伝えて死にたい』

一人です。多人数でなくてもいい。本島の道の始まりは、「一人にこの本当の教えを伝えるのだ」という思いから出発しているということですよ。

私たちは世界に向かって大勢の人々に声をかける、心をつないで行くことはもちろんですが、今日の記念祭の日当たって、誰か一人に本当の教えを伝えるのだ、という決意を誓い合いたいと思います」と述べられました。

私はこのご挨拶を大事にしたいと思うのです。

大教会長様が「誓い合いたい」と言うのですから、大教会長様と私たちが誓うのであります。そして、みんなで、親神様・教祖にお誓いさせて頂く。誓い合う中に私達も入っているのです。

まず、私たち教会長が親神様・教祖を信じ切る、そしてぶれない。親

神様の大きいなる御守護の有難さに感謝して、ご恩報じを念じて通る。

そして、この三年千日の歩みの中で、また先々の歩みの中で、誰か一人に本当の教えを伝えること、一人にしっかりと道を伝えること。これを一つの目標に、本島のみんなで年祭活動に励ませて頂きたい。そして、この教会もバトンを次の方に手渡すことが出来ると思うのです。

昨春秋、自教会で夕食を食べている時、家族の者にこの大教会長様のご挨拶を伝え、「私も一人にこの本当の教えを伝えたい。本物の信仰者を一人作りたい」と話したら、今、布教の家埼玉寮に入っている息子が即座に「お父さん、僕がいるじゃん。僕がその一人だよ」と、申すのです。それで私はその時には、「家族以外に一人作りたいんだ」と言葉を返したのですが、「僕がいる。僕がその一人だよ」と答える息子に、この先何があるとも、新たに道を切り拓いていくんだという強い気概を感じ、嬉しく有難く思いました。

誰か一人に本当の教えを伝えるのだ、一人にしっかりと道の教えを伝えるのだ、という決意を持って年祭活動に歩ませて頂きたいと存じます。

最後になりますが、今月9月28・29・30日は全教一斉にをいがけデーであり、9月は「にをいがけ強調の月」です。

本島大教会布教部では、9月を「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」提出強調の月とし、全教会の提出を目指して取り組ませて頂いており、毎月提出します」と定めると、案外出来るものです。

大教会長様は6月教会長会議でのご挨拶の中で、

「教祖年祭活動が始まり、コロナ禍による制約もなくなった現在は、皆で集まって活動することも大切ですが、ようぼく一人ひとりが心を定めて、にをいがけ・おたすけの実行をすることに年祭活動の意義があると思います」とお述べになりました。

「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」の提出を上手にご活用して頂きたいとお願い申し上げます。

教祖140年祭歩み出しの年も、あと3か月余りとなりました。

共々に、明るく勇んで年祭活動に励ませて頂きましょう。

ご清聴有難うございました。

(文責・本島通信編集室)

九月月次祭 祭典役割

神殿講話	吉田晴雄	胡三味線	池田さわみ	片山 榮	岡崎八十則	井上 哲	原口和子	岩尾澄子
		ちやんぼん	雲庵道延	窪田靖明	牧野道昭	井上 哲	長尾善子	高垣洋子
		拍子木	岩橋竜造	雲庵道延	窪田靖明	井上 哲	長尾善子	高垣洋子
てをどり	大教会長	岩橋慶三	西山道教	会長夫人	片山やすゑ	片山孝子	高垣洋子	
地方	寺本教生	老木邦光	大西 知	宮路和徳	片山直明	永島宗行	奥村龍夫	横山富明
座りづとめ	片山 勲	井上 哲	伊東康成	大上道徳	てをどり前半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半
祭主	大教会長	牧野道昭	片山 勲	伊東康成	大上道徳	伊東康成	伊東康成	伊東康成
献饗長	岡崎八十則	伝 供	篠原丕王・向所隆文・永島宗行・原口実・奥村龍夫・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山止次・高島栄造・横関茂治・長尾海和・岩橋守行・岩橋秀一・山下英久・鎌田典夫・宮路和徳・位下道治・肥後章・片山幹太郎(順不同)	滑川善久・古井信・香川勝巳・白垣初生・江草克二・村田輝夫・溝口晋太郎・橋口徹	雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・片山秀明・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・白垣俊生	片山幹太郎(順不同)	片山幹太郎(順不同)	

九月月次祭祭文

立教百八十六年九月二十一日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様にはこの世人間をお創め下されてから以来子供可愛い一条の親心のまにまに片時も忘れることなくお見守り下さり時旬に庇じてだんだんのお仕込みを賜りつつ幾重の道すがらも成人の道意なくお連れ通り下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない限りでございます

私共はこの大きな親心に抱かれ御恩報じを念じつつ日々勇んでたすけ一条の御用に励ませて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会の九月の月次祭を執り行う定めの日柄を迎えましたので只今から役目にあずかるおつとめ奉仕者一同心を揃えて御教え通り座りづとめ、てをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます

御前には今日を樂しみに帰りました道の子供達が日頃の御厚恵に御礼申し上げおつとめを唱和して尚も変らぬ御守護にお継りする真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

私共一同は教祖百四十年祭を目指してそれぞれが定めた成人の目標に向かって届かぬながらも歩を進めさせて頂いておりましてその三年十日の一年目も余すところおよそ二ヶ月となりました

これまでの歩みを振り返り教祖のひながたを見つめ直し明るく勇んで年祭活動を進めさせて頂く所存でございます

尚来る十月二十一日には当大教会三代会長片山俊

次の霊様の三十年祭と併せて三代会長夫人片山コズエの霊様の二十年祭を執り行わせて頂きます

両年祭を勤めさせて頂くに当たりましては御在生中の類いまれなる幾多の御功績は申すまでもなく霊様の「ごらば一筋」「親孝心」の信仰を私達一人ひとりが心に正して更に世界たすけの御用と次代を担う道の後継者の育成に心を尽くされたように私達も更なる努力を積み重ねさせて頂く決心でございます

更にはこの月は二十八日から三十日までの三日間「全教一斉にをいがけデー」とお定め頂いておりますので心の闇路をさまよっておられる方や世界たすけの御教えを知らない方に陽気がぐらしの生き方を写し伝えさせて頂く所存でございます

何卒年祭活動の上には一層のお導きを賜り時旬にふさわしい成人へとお連れ通り下さいます世上の治まりと共に一列兄弟が互いに睦み楽しむ陽気ぐらしの状に一日も早く立て替わりますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます (原文のまま)

入社祭

(立教186年9月22日)

▼仙峰△水野健一 (計1名)

9月22日(金) 【香川県丸亀市】

天候 曇時々雨

最低気温 23.2℃

最高気温 29.3℃

平均気圧 1011.9hPa

平均湿度 78%

平均風速 2.0m/s

日照時間 0.5時間

降水量 3.5mm

※降水量は一日の総雨量

本幸山分教会5代会長就任奉告祭



本幸山分教会(後藤正樹会長)の奉告祭の様子

本幸山分教会(後藤正樹会長)では、本年6月26日のお運びで後藤正樹氏の教会長任命の理のお許しを戴いておりますが、去る8月30日午後1時より大教会長夫妻(随行・永島宗行准役員)を迎え、5代会長就任奉告祭を執り行いました。参拝者23名。

挨拶に立った大教会長は、後藤正樹新会長について、屋外でひのきしんを勤めてきた様子から「晴天が似合う会長さん」と評し、二つのことについて述べられました。

一つ目は、今年が上級の御幸濱分教会創立100周年にあたることから「100年前の教祖40年祭の旬、厳しい社会情勢から布教が困難な時代、先人たちは成って来る姿を重く受け

止め、どのような心直し、踏ん張りが必要か話し合い、年祭活動に取り組みました。例えば、皆が寝静まった時間に見えないところでひのきしんに伏せ込まれました。それは個人のいんねんを納消し、おちばで陰徳を積み、心の掃除をして澄み切った心に生まれ変わる実践であったと思われまます。百年が経ち、本幸山分教会の新たな代が始まるに当り、先人の道に学ばせて頂きますように」と、真実のひのきしんについてお話されました。

二つ目は、今年が年祭活動



歩み出しの旬。親神様の「ご守護」と「お働き」に違いについて、「ご守護」とは身の内

のご守護、身の周りのご守護など、当たり前のご守護がご守護です。当たり前で分りにくいご守護に気づき感謝することが大切です。続いて「お働き」とは、私たち一人ひとりがより結構に、陽気に、立派なよう、ぼくになるためにお働き下さることで。どのような心遣いにお働き下さるのか。それは「人救けたら我が身救かる」と教えられるように、たすけ一条の心にお働きくださいます。」と明確にされ「ご守護を感じ、感謝し、お働き頂けるよう心づくりに努めさせて頂きました。」とお話されました。

本幸山分教会は教会事情から長期間教会長不在が続いていましたが、このたび御幸濱分教会長子弟が後継したことから、この日を待ち望んできたよう、ぼくはとりわけ勇み立ち、陽気におつとめが勤められました。

秋季霊祭役割

雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・白垣俊生

祭主	指図方	扨者	賛者	献饌長	伝供	向所隆文	奥村龍夫	雲庵春彦	茶屋原良昭	高島栄造	長尾海和	岩橋秀一	鎌田典夫	肥後章	井上力	田輝夫
大教会長	牧野道昭	片山 勲	井上 哲 大上道徳	伊東康成 岡崎八十則	窪田靖明 原口実	高垣光治 高垣光治	横山止次 横関茂治	片山直明 片山直明	横山止次 横関茂治	高島栄造 横関茂治	長尾海和 岩橋守行	岩橋秀一 上野作也	白垣初生 白垣初生	香川勝巳 香川勝巳	橋口徹 橋口徹	
てをどり	てをどり前半	てをどり後半														
笛	奥村龍夫	高島栄造														
ちゃんぼん	吉田晴雄	香川勝巳														
拍子木	岩橋慶三	岩橋守行														
太鼓	寺本教生	宮路和徳														
すりがね	篠原丕王	長門淳一														
小鼓	岩橋竜造	上野作也														
琴	片山やすゑ	吉田要子														
三味線	片山孝代	片山美穂														
胡弓	向所暉美子	岩橋貴子														

立教186年ごどもおちばがえり

本島回帰参報告
一、婦参教会 40教会
一、婦参総数 313名

内訳

少年会員139名
(内、わかぎ16名)
育成会員174名

以上

おちばがえり

(立教186年9月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会△高垣さとえ ▼本高分教会 ▼ポータル△片山和信・陽子・昇慶・竜次 ▼マリーナ△岩橋芽
ご芳志に厚くお礼申し上げます

宮森与一郎先生おてなおし

大教会世話人・宮森与一郎先生による「おてなおし」が9月25日午後3時より70分間、詰所4階講堂で行われ、約40名が受講しました。

おつとめは、素直な心・一手一つの心・陽気な心で勤めさせて頂くことが大切とされ、基本の手振りを学びました。



布団カバー洗濯ひのきしん

大教会信者会館の各室にある布団カバーはこれまで大教会で洗濯を行ってきましたが、季節の変わり目にあたり、今回初めて詰所の大型洗濯機を



使って洗濯しました。

9月の爽やかな晴天のもと、詰所2階の物干し場では多くの有志ひのきしん者の手によって真っ白なカバーが干され、一日で片づきました。

今後も継続的に行われる予定で、帰参の皆さまには作業のお手伝いをお願いします。

陽気ぐらし講座(阪峰布教所)

大阪府貝塚市にある阪峰布教所(伊藤博志所長・大隅聖峰分教会)では、8月6日午後2時より同布教所にて「陽気ぐらし講座」を実施。本布教所講師の茶木吉信先生より「家族の絆・地域の絆を

取り戻す」「災害から身を守る・心を守る」と題して講演が行われました。

4年ぶり12回目となる今回、未信者2名を含む21名が受講しました。

青年会栗太分会栗太

青年会栗太分会キャラ

バン隊一行

9名が9月

2日、本島

大教会へ来訪。本島分



会の青年5名とともに、終日境内地の草刈りひのきしんを行いました。おやさとおふしん青年会ひのきしん隊と一緒に班活動を行った経緯から交流が行われました。



大真地区の田んぼ(9月27日撮影)

訃報

本陽泉分教会前会長

四辻信子姉



よつしのぶこ 四辻信子姉(本陽泉分教会3代会長)は去る9月4日午後9時23分、お出直しになりました。享年91歳。葬儀はみたまうつしを9月8日午後6時より、告別式を翌9日午前11時より、大分県別府市内の葬祭場にて、池田さわみ・安藝本中分教会長斎主のもと執り行われました。みたまうつしに大教会長が参列されました。 四辻信子姉略歴 昭和7年3月28日生まれ。昭和27年6月19日、おさづけの理拝戴。同年6月27日、修養科第132期修了。昭和43年2月16日、教会長資格検定合格。同年3月24日、教人登録。立教162年12月26日、本陽泉分教会3代会長拝命。立教163年11月22日、大教会神殿奉仕人指名。立教177年10月26日、本陽泉分教会長辞職。教会長在職期間14年10ヶ月間。

事情はいび

(立教186年9月25日)

本京分教会
臨時祭典願
創立百周年記念祭

立教186年10月14日
以上

証拠守り下附

(立教186年8月分)

雄福峰1
[計1名]

をびや許し

(立教186年8月分)

栄森峰 西森孝子
實峰 新谷紗和
新信峰 小教賀理乃
[計3名]

い誕生おめでとう

ゆきたりひと
油木田理仁くん(令和5年8

月18日生まれ、
大隅聖峰分教会)



大教会長動向

▼10月(予定)▲

3日、香川教区役職者会議
8日、教人資格講習会講師
13日、本京分教会
神殿落成鎮座奉告祭

並びに創立百周年記念祭
21日、本島大教会3代会長
片山俊次30年祭並びに

3代会長夫人片山コズエ
20年祭執行
22日、大教会秋季大祭執行

24日、大裏地区稲刈ひのきしん
25日、かなめ委員会
26日、本年秋季大祭参拝

27日、かなめ会
29日、本浜分教会初代会長
岡崎ヨ子50年祭

30日、神殿奉仕当番
以上



【教会の掲示板】
本島ドットコムよりダウンロードできます

布教部報告(9月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいかけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

統計(7月1日~31日)

にをいかけ名簿提出教会(9月)			おさづけ取次報告教会(9月)			統計(7月1日~31日)												
教会名	初席	中席	聖ひ壇	修養科	教人講習	検定講習												
本島	3	本米里	4	赤峰	9	本島	8	本千代	9	赤峰	9	本島	2					
樺太	8	本千代	9	雅峰	7	樺太	8	本千賀	3	雅峰	7	樺太		2				
本倉岡	9	本千賀	5	南峰	4	本倉岡	9	本千治	3	豪峰	4	本千代	1					
本陸奥	2	本千治	5	豪峰	9	本陸奥	4	本千恵	6	倉峰	8	本千恵		1				
本樺	9	本千恵	5	倉峰	8	本樺	9	本平濱	8	雄福峰	3	本水島		1				
本室	9	本平濱	3	雄福峰	3	本室	9	本攝	7	雄山峰	6	本亀		1				
渋谷	7	本攝	2	雄山峰	6	渋谷	7	本吹田	3	栄森峰	7	本小倉		1				
代々木	6	本吹田	2	栄森峰	7	代々木	2	本泉	6	栄星峰	1	本吉		1				
本萬代	6	本泉	3	栄星峰	1	本萬代	6	本太	4	栄東峰	9	本神		3				
本都	9	本太	3	栄東峰	9	本都	9	本萩	5	霊峰	9	本豪		1				
本京	9	本浦	4	霊峰	9	本京	9	本水島	9	實峰	8	本實		2				
本東	1	本備前	8	實峰	8	本東	1	本備前	9	大隅聖峰	2	本小倉		1				
本草	1	本府中	9	大隅聖峰	2	本草	1	本府中	9	大松峰	1	本吉		1				
本護	5	本沖浦	4	大松峰	1	本護	5	本沖浦	4	文峰	5	本神		3				
本三	3	本清水	5	大英峰	4	本三	3	本清水	5	肥後八峰	5	本豪		1				
本恵	6	本崇徳	9	文峰	5	本恵	6	本崇徳	6	銀峰	5	本實		2				
本恵明	6	本与島	6	肥後八峰	5	本恵明	6	本与島	6	都峰	3	本大隅聖峰		1				
本静濱	4	本九	2	銀峰	5	本静濱	4	本九	2	鶴峰	6	本吉松		1				
本静森	4	本小倉	2	鶴峰	6	本静森	4	本小倉	2	都峰	5	本大隅聖峰		1				
本日米	6	本肥港	3	都峰	5	本日米	6	本肥港	5	仙峰	9	本吉松		1				
本浜	2	本新田	8	仙峰	9	本浜	2	本新田	5	シータック	1	本吉松		1				
本米	5			シータック	1	本米	5					本吉松		1				
計65教会			453名			計74教会			1,802回			合計	4	15	0	0	-	-



3代会長片山俊次30年祭

【総務部】

本島大教会 3代会長片山俊次主 30年祭
3代会長夫人片山コズエ刀自 20年祭

- 日時：10月21日(土)午後2時執行
- 場所：本島大教会
- タイムスケジュール
 - 9:00 墓前祭
 - 10:30 受付開始
 - 11:15 宮森与一郎先生ご到着
 - 13:15 おつとめ奉仕者集合
 - 13:30 祖霊殿開扉・献饌
 - 14:00 神殿の儀 てをどり
祖霊殿の儀
大教会長あいさつ
3代会長様の音声視聴
記念撮影(神殿内)
 - 18:15 タづとめ・お願いづとめ
直会

尚、翌日の秋季大祭において宮森与一郎先生より神殿講話を頂きます。

- 丸亀側の駐車は「丸亀市港駐車場」をご利用下さい。24時間500円。
- 児島側の駐車はアーバンホール(葬祭場)専用駐車場(JR高架下)をご利用ください。無料。
- 児島観光港 10月21日正午発(時間厳守)の特船の乗船料金は一人千円です。当日乗船前、大教会の担当者にお支払いください。

秋季雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：10月8日(日)午前10時～9日(祝)午後3時解散
- 会場：本島詰所
- 内容：経験者は太食調、初心者は平調

年祭準備ひのきしん

【青年会本島分会】

- 日時：10月14日(土)午前10時集合～15日(日)午後3時解散
- 場所：本島大教会

ようぼく研修会

【布教部】

- 日時：10月25日(水) 18:30～20:00
- 会場：本島詰所4階講堂
- 参加御供：500円(但し修養科生、講習生、学生は無料)
- 講師：金山元春先生(天理大学教授) 『人と関わる知恵』

大裏地区稲刈りひのきしん

↓ 【伏せ込みひのきしん係】

- 日時：10月24日(火)午前9時より、ひのきしん終了まで
- 送迎：8時50分、詰所玄関前より出発
- 場所：大裏地区(天理市豊田町)
- 服装：長袖、長ズボン、帽子、タオル、軍手、長靴または靴 ※汚れても良い服装
- 作業内容：稲刈り等
- 雨天中止
- 詰所の宿泊食事は、各自詰所へお申込みください

第97回天理教青年会総会

【青年会本部】

- 日時：11月25日(土)午前11時
- 会場：本部中庭
- 本島分会は、午前9時30分写真の間集合。後夜祭終了後解散
- 参加費：500円

会計部より

【大教会会計部】

- 令和5年度 本部教会教費金
令和5年度教会教費金が未納の教会は、10月26日まで本部会計へお納めください。
- 10月の大教会「総合会費」は、年祭行事のためお取り扱いしません。11月に合わせてお願いします。

<https://www.honjima.com/>

↓ は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード

10月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉

- 期間：10月21日～22日
- 派遣教会：赤峰

〈秋季大祭詰所受入ひのきしん〉

- 期間：10月24日20:00～26日14:00
- 派遣教会：渋谷、本浜、本海、本柳、琴浦、本承德、沖浦、本新田、本肥、赤峰より各1名

大教会秋季大祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：10月22日大教会秋季大祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：10月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。
- 10月21日3代会長年祭のライブ中継はありません。



少年会本部研修員募集

【少年会本部】

- 募集人数：30人
- 出願期間：令和5年9月26日～令和6年2月29日(必着)少年会本部で勤務される方は1月26日までに
出願してください
- 研修期間：令和6年3月26日～令和7年3月26日
- 出願資格：①団長が推薦し、直属教会長が認めた者。②ようぼく(おさづけの理を拝戴予定の者も可)
- 研修内容：講義・しこみ・実技・実習。1年間の研修期間中に、少年会本部でひのきしんをつとめます。
- 詳細は大上道徳団長へお問合せください。

本島通信 WEB版は本島ドットコムより申込み承ります。印刷物よりお手元に速く届き、写真がカラーで鮮明です。